

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第 1 項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2019年 6 月25日

【事業年度】 第60期(自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日)

【会社名】 大室温泉株式会社

【英訳名】 —

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山 口 正 志

【本店の所在の場所】 静岡県伊東市富戸字先原1317番4562

【電話番号】 0557—51—1096

【事務連絡者氏名】 総務課 高 橋 健 二

【最寄りの連絡場所】 静岡県伊東市富戸字先原1317番4562

【電話番号】 0557—51—1096

【事務連絡者氏名】 総務課 高 橋 健 二

【縦覧に供する場所】 該当なし

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月	2015年 3 月	2016年 3 月	2017年 3 月	2018年 3 月	2019年 3 月
売上高 (千円)	312,186	309,351	305,733	302,746	290,560
経常利益又は経常損失 (千円)	6,547	20,918	39,354	16,827	4,044
当期純利益又は当期純損失 (千円)	187,468	8,950	36,281	11,654	1,606
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—	—	—
資本金 (千円)	68,500	68,500	68,500	68,500	68,500
発行済株式総数 (千株)	137	131	131	131	131
純資産額 (千円)	818,980	833,367	868,646	879,403	879,703
総資産額 (千円)	1,138,154	1,069,598	1,078,259	1,079,044	1,057,573
1株当たり純資産額 (円)	7,520.48	7,716.36	8,202.52	8,423.40	8,675.57
1株当たり配当額(1株当たり中間配当額) (円)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 (円)	1,696.77	84.17	340.10	111.70	15.72
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	71.9	77.9	80.5	81.4	83.1
自己資本利益率 (%)	22.8	1.0	4.1	1.3	0.1
配当性向 (%)	—	—	—	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	47,333	18,043	64,239	48,966	32,384
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,227	33,250	21,758	16,563	15,026
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	11,558	4,558	1,844	750	1,450
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	151,497	197,377	238,397	270,050	285,958
従業員数 (外、平均臨時雇用人員) (名)	14 (4)	14 (4)	13 (3)	12 (4)	12 (4)

- (注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、各期について潜在株式が存在しないため、また、第56期については、1株当たり当期純損失金額が計上されているため、記載しておりません。
- 4 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
- 5 株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価、最低株価については、当社株式は非上場でありますので、記載しておりません。

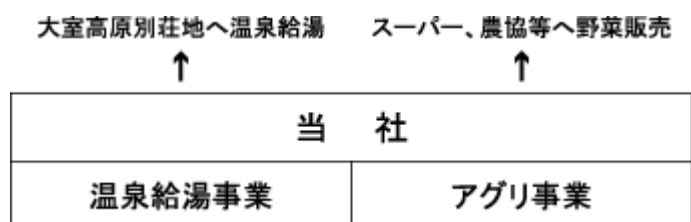
2 【沿革】

1959年 5 月	東京都中央区銀座 4 丁目12番20号において、伊東市大室高原別荘地の温泉給湯事業を目的として、東拓温泉企業株式会社を設立
1959年 5 月	静岡県伊東市に支店を開設
1969年 5 月	伊東支店を閉鎖
1974年 5 月	伊東市大室高原に営業所を新設
1978年 6 月	大室温泉株式会社と商号を変更
1989年11月	伊東営業所を閉鎖して、伊東支店を設置
1991年 6 月	事業目的に民芸品、工芸品、テレホンカードの販売並びに飲食店の経営を追加
1994年 2 月	本店の所在地を東京都中央区銀座 4 丁目10番10号に移転
2000年 8 月	本店の所在地を静岡県伊東市富戸字先原1317番4562に移転
2010年 6 月	事業目的に温泉を利用した事業の経営、農産物の生産及び販売事業、ホームサービス事業、介護及び看護に関する事業を追加
2012年 4 月	温泉を利用した水耕栽培による野菜の生産・販売事業を開始

3 【事業の内容】

当社は、温泉事業及びアグリ事業の 2 つのセグメント情報の区分にわたって、温泉利用者や一般消費者へ当社製品・サービスの提供を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

(2019年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
12 (4)	40.6	17.6	3,206

セグメントの名称	従業員数(名)
温泉事業	11 (-)
アグリ事業	1 (4)
合計	12 (4)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者は()内に年間の平均雇用人員を外数で記載しております。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

当社は、労働組合がありませんので、労使関係について特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社の源泉温度は36.8 であり、規約上、量湯器で45 以上を確保するには加温をしなければなりません。現在重油にて加温しておりますが、重油価格の変動により収益が左右され、今後においても重油価格の高騰が懸念されます。当社のできることは重油の効率的な使用が最大のポイントとなり、漏湯の削減が最重要となりますので古い給湯管の新管への積極的な敷設替え、漏湯探知による敷設替えを行っていきます。また、重油に変わる低コストエネルギーや、環境にやさしいエネルギー（電気・ガス等）も諸条件を勘案しながら、前向きに検討していきます。

温泉使用者の減少の対策として、当社は別荘地開発から半世紀以上経過し、当時の使用・未使用者の方々の高齢化につき、世代交代等による減少傾向については実態として受け入れつつ、現在は少しずつではありますが不動産売買等の動きが見られているので、現状を把握し情報収集に努め文書発送や現地訪問、電話対応においては親切・丁寧な対応を心掛け、地道な勧誘活動による使用者の増加を推進していく方針です。また1年自動更新を取り入れた結果、減少を止められたこともあり、今後料金を含めて使い易いシステムの提案も考えていく方針です。

アグリ部門については7年経過し、設備の更新も必要な時期となっており、安定供給の為の設備の充実を検討していきます。また、太陽と温泉という自然の影響が強い生産システムであり、出荷日数、不良品対策等の生産ノウハウの向上も今後の大きな課題であります。伊豆に來られたお客様に伊豆ならではの商品として認知されるよう、ホテル・旅館・ペンション・レストラン等の観光関連施設にも積極的に売り込みを図っています。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

原油価格の大幅な変動

当社の燃料は主に重油を使用しており営業費用に占める燃料費の割合は2017年3月期21%、2018年3月期23%、2019年3月期25%（一部重油からガス切替の為ガス含む）となっております。これは最近における原油価格の変動の影響を強く受けているためであり、燃料使用量の効率化を行っても今後著しい価格の変動が生じた場合、会社の損益に与える影響は非常に大きいものと考えております。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当社の主力事業である温泉給湯事業については、毎年温泉使用者が減少している状況であり、この状況を打開すべく「新規権利契約者」の獲得及び権利は保有しているが、温泉を一度も使用されていない「未使用者」の方、また温泉使用を止めている「廃止又は休止」の方について使用をして頂くよう現地訪問や文書発送・電話営業等、積極的に行っておりますが減少分を補填できる程の効果は出ていない現状であります。また、温泉使用者の減少を抑えるべく、更新につきましては2014年度より従来の「10年一括更新」の他に「1年自動更新」を新設した結果好評を頂いております。今後とも温泉使用者の増加について全社を挙げて鋭意努めて参ります。

温泉の使用状況は期末1,259戸・1,304口（前期比30戸・31口の減少）となっております。また温泉使用量は73,733m³（前期比6,031m³の減少）となりました。

このような状況下温泉部門の売上高は、277,400千円（前期比約3.3%減）となりました。費目別には温泉給湯料収入が7,145千円の減少でしたが、受取手数料（名義書換等）は225千円の増加となりました。また、2016年度から復活した維持管理費収入は6,325千円となっております。

一方コスト面では燃料費（重油）と動力費（電気）の値上がりに付き、燃料費削減及び騒音改善のため、2018年10月に2・3ブロックにおいてガスボイラーへの取替えを行いました。燃料費（重油代）は64,383千円（前期比635千円の減少）、ガス変更分（動力用水光熱費）は7,000千円、合計で71,383千円となり、前期比6,365千円増加。動力費は37,758千円（前期比3,361千円の増加）となり、上記3項目の前期比合計は9,727千円の増加となりました。また減価償却費は41,766千円（前期比2,220千円の減少）となりました。

アグリ事業部におきましては、温泉水を利用したレタスの温泉水耕生産について夏場に不良品が大量に発生した結果、8月～10月の販売数が大幅に低下してしまい、11月以降拡販に努めましたが最終的には売上高は13,160千円となり前年比2,805千円の減少となりました。今後においては、レタスの安定生産の再構築及び伊豆にしかない太陽と温泉の恵みから生まれた『ジオレタス』（商標登録）として生産・販売の拡大を図っていく方針です。

以上の状況下で当事業年度の業績は売上高290,560千円（前期302,746千円）、営業利益2,816千円（前期16,234千円）、経常利益4,044千円（前期16,827千円）、当期純利益1,606千円（前期11,654千円）と黒字は確保しましたが、減収減益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

イ 温泉事業

当事業年度における温泉事業は、売上高が277,400千円（前年同期286,780千円）、営業利益が3,856千円（前年同期15,474千円）となりました。

ロ アグリ事業

当事業年度におけるアグリ事業は、売上高が13,160千円（前年同期15,965千円）、営業損失が1,039千円（前年同期760千円の営業利益）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、2・3ブロックガスボイラー等有形固定資産の取得による支出がありましたが、増加要因として主に税引前当期純利益及び減価償却費によるもので、資金の期末残高は前年同期に比べて15,908千円増加し、285,958千円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における営業活動の結果得られた資金は32,384千円(前年同期48,966千円)となりました。主な増加要因は減価償却費45,022千円であり、主な減少要因はその他負債の減少16,357千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における投資活動の結果使用した資金は15,026千円(前年同期16,563千円)となりました。この主なものは、有形固定資産の取得による支出16,261千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における財務活動の結果使用した資金は1,450千円(前年同期750千円)となりました。これは主に自己株式の取得による支出であります。

生産、受注及び販売の実績

当社は温泉の給湯事業及びアグリ事業を行っており、受注・生産形式の営業活動は行っておりません。また生産、販売の実績については、「財政状態及び経営成績の状況」における売上高の記載に示されたとおりであります。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表作成にあたって、当社経営者は、資産・負債の報告金額及び報告期間における収益・費用の報告金額を継続的かつ適正に評価するために、過去の実績や状況に応じ合理的だと考えられる様々な方法に基づき十分な検証を行っております。

当事業年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当事業年度の経営成績は、売上高は290,560千円となり、前年同期と比較して12,185千円減少しました。営業利益が2,816千円(前年同期は16,234千円)となり、経常利益が4,044千円(前年同期は16,827千円)となり、当期純利益が1,606千円(前年同期は11,654千円)となりました。主要な温泉事業においては、温泉給湯料収入は前年同期比7,145千円減少となりましたが、受取手数料が前年同期比225千円増加しました。

経営成績に重要な影響を与える要因について

当社は法人利用者のほか多数の個人利用者に対する温泉給湯を主たる事業としており、近年は個人利用者の減少傾向が続いております。また、温泉源より一定の温度に加熱して供給するため、その燃料として重油を使用しておりますが、昨今の原油価格高騰は当社の収益圧迫要因になってきており、今後も原油価格の推移次第で燃料費の負担が増加する懸念があります。

戦略的現状と見通し

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。温泉事業は温泉利用者の減少傾向が続く現状ですが、利用者の増加をめざして可能なサービスを鋭意検討しております。当社が現在講じている対策は以下のとおりであります。

- イ 原油価格高騰に対処する為には重油の効率的使用が最大のポイントと捉え、古い給湯管の新管への計画的敷設替え及び漏湯探知強化による敷設替えを行っています。
- ロ 低コストエネルギーや環境にやさしいエネルギー（電気・ガス等）に前向きに対応しております。
- ハ 親切丁寧な対応による利用者の増加を窓口及び温泉部員の訪問営業により図っております。
- ニ 1年自動更新導入や各種料金の見直しによる利用しやすいシステムに変更しており、今後も各種見直しを続けていきます。

アグリ事業は太陽と温泉水による栽培で自然が強く影響する生産システムですが、それを当社の商品(ジオレタス)個性として売り込みを強化するとともに、不良品率の低下を図るべく、生産ノウハウ向上を一番の課題として、季節的な品種、蒔き方、温度・湿度、害虫・病気等個別案件の改善を行っております。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

イ 流動性の管理方法

当社の事業に関しては現金売上と口座振込による売上であり、現在のところ運転資金等に不自由な面はないと考えております。

ロ 財政状態の分析

当事業年度末の総資産は1,057,573千円となり、前事業年度末(1,079,044千円)に比較して21,471千円の減少となりました。

主な増減内容は、現金及び預金の増加11,108千円、有形固定資産の減少28,552千円等であります。

当事業年度末の負債合計は177,870千円となり、前事業年度末(199,641千円)に比較して21,770千円の減少となりました。

主な増減内容は、前受金の減少16,012千円等によるものであります。

当事業年度末の純資産は879,703千円となり、前事業年度末(879,403千円)に比較して299千円の増加となりました。

これは、繰越利益剰余金1,606千円の増加等によるものであります。

ハ キャッシュ・フローの分析

「第2事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しているとおりであります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社は、大室高原別荘地において、当事業年度末現在の配湯権所有者全体で2,074口の内1,304口の温泉使用者へ温泉の給湯を行っております。また、残る未使用者770口の配湯権者に対しては常時給湯体制を整えておくことが義務づけられていると考えており、5ヶ年を区切りとし2016年度より2020年度までの給湯設備計画を立て、配管工事等順次行っております。

当事業年度の設備投資の主なものは、2・3ブロックガスボイラー取替工事及び年数の経過したポンプ、ボイラーの新規取替工事や、各ポンプ配電盤改良工事12,959千円及び従来より継続している温泉管の敷設替工事7,613千円でありました。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

主要な設備は以下のとおりであります。

(2019年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
		建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具器具備 品	土地 (面積㎡)	合計	
本社 (伊東市富戸)	温泉事業部 給湯設備	267,191	34,948	106	119,772 (13,859)	422,018	12
	アグリ事業部 野菜栽培設備	12,677	809	—	18,384 (2,009)	31,872	
	本社 事務所・駐車場	—	—	—	10,575 (749)	10,575	
合計		279,868	35,758	106	148,733 (16,617)	464,466	12

(注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。

2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社の設備投資については、景気の動向を予測して、資金計画とともに投資効果等を勘案して立案施工しております。

なお、当事業年度末現在における設備計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
		総額 (千円)	既支払額 (千円)				
本社 (伊東市富戸)	温泉事業部 温泉管敷設工事	20,000	—	自己資金	2019年4月	2020年3月	—

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	548,000
計	548,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	131,600	131,600	—	(注) 1、2
計	131,600	131,600	—	—

(注) 1 当社は単元株制度を採用しておりません。

2 株式の譲渡制限に関する規定は次のとおりであります。

当社の発行する全部の株式について、会社法第107条第1項第1号に定める内容(いわゆる譲渡制限)を定めており、当該株式の譲渡又は取得について取締役会の承認を要する旨を定款第10条において定めております。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
1981年6月30日 (注)1	685,000	137,000	342,500	68,500	—	—
2016年3月28日 (注)2	5,400	131,600	—	68,500	—	—

(注)1 6 : 1 で無償併合したものであります。

(注)2 自己株式の消却による減少であります。

(5) 【所有者別状況】

(2019年3月31日現在)

(2019年3月31日現在)

区分	株式の状況								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	—	—	88	—	—	719	807	—
所有株式数 (株)	—	—	—	14,600	—	—	117,000	131,600	—
所有株式数 の割合(%)	—	—	—	11.09	—	—	88.91	100.0	—

(注) 自己株式は、「個人その他」に含めて記載してあります。なお、自己株式30,200株は名簿上の実数であり、2019年3月31日現在の実保有株式数であります。

(6) 【大株主の状況】

(2019年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に対 する所有株式数 の割合(%)
山 口 正 志	静岡県伊豆の国市	6,500	6.41
松 原 昭 司	静岡県伊東市	6,500	6.41
大室温泉従業員持株会	静岡県伊東市	3,100	3.06
(有)杉進建設	静岡県伊東市池569-14	1,000	0.99
福 本 芳 夫	静岡県伊東市	500	0.49
岡 川 治 郎	千葉県柏市	500	0.49
小 沼 壽 雄	静岡県伊東市	400	0.39
(有)花彩亭	静岡県伊東市八幡野字高塚1265-9	400	0.39
(株)セラヴィリゾート泉郷	東京都豊島区南大塚2-45-8 大塚NSビル7階	400	0.39
(有)伊豆設備工業	静岡県伊東市池552-2	400	0.39
計	—	19,700	19.43

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(2019年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 30,200	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 101,400	101,400	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	131,600	—	—
総株主の議決権	—	101,400	—

(注) 当社は単元株制度は採用しておりません。

【自己株式等】

(2019年3月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 大室温泉株	静岡県伊東市富戸字先原 1317—4562	30,200	—	30,200	22.95
計	—	30,200	—	30,200	22.95

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(2017年6月22日)での決議状況 (取得期間2017年6月22日～2018年6月21日)	5,000	2,500,000
当事業年度前における取得自己株式	2,500	1,250,000
当事業年度における取得自己株式	1,400	700,000
残存授權株式の総数及び価額の総額	1,100	550,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	22	22
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	22	22

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(2018年6月27日)での決議状況 (取得期間2018年6月27日～2019年6月26日)	5,000	2,500,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	2,700	1,350,000
残存授權株式の総数及び価額の総額	2,300	1,150,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	46	46
当期間における取得自己株式	600	300,000
提出日現在の未行使割合(%)	34	34

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(2019年6月24日)での決議状況 (取得期間2019年6月24日～2020年6月23日)	5,000	2,500,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	—	—
残存授權株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	—	—
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	100	100

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(売却)	1,100	550	—	—
保有自己株式数	30,200	—	30,800	—

3 【配当政策】

当社の株主は、温泉使用权を所有する受益者であり、株主の温泉使用に際してこの受益効果を増進させることが、改良工事進行中の段階では利益の還元につながるものと考えており、これを当面の基本方針としております。なお、当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

上記方針ではありますが、配当は実施しておらず、株主への利益還元のため設備投資に充当しております。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

<コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方>

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、様々な経済環境の変化に対応するべく柔軟な体制を確立し、株主及び利用者の利便性を保ち、企業倫理の遵守と経営方針の維持に努めていくことで当社のコーポレート・ガバナンスを充実させていくことが重要な課題であると認識しております。

企業統治に関する事項

イ 取締役会

取締役会は、2019年3月31日現在、3名で構成しており、重要な案件や突発的な会社の経営に影響を及ぼす事項については即座に対処できるよう密接な連絡関係を保っております。

取締役会は、1ヶ月に1度開催しておりますが、重要な意思決定が必要とされる案件の発生があった場合には随時開催しております。

ロ 取締役

当社の取締役は5名以内とする旨定款に定めております。またその選任決議は、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款で定めております。

ハ 監査役

当社の監査役は2名以内とする旨定款に定めております。またその選任決議は、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款で定めております。

監査役は、2019年3月31日現在、1名で構成しており、常に取締役会に出席し取締役の職務執行を監督、評価し取締役会で意見を述べ、会計監査及び業務監査に際して公正な監査を行う体制を整えております。また、当社の金融商品取引法に基づく法定監査を行う公認会計士とは、必要に応じて意見交換を行っております。

二 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

(中間配当)

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、取締役会の決議により中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

ホ 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その3分の2以上をもって行う旨定款で定めております。

リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は従業員数が12名と少数であり、経営者との意思の疎通が図りやすい面もあり、日常から業務実施の有効性及び妥当性を検討しながら、法令等への遵守、業務管理の徹底を実施しております。これによって相互の連携及び危機管理意識を向上させるようにしております。

役員報酬の内容

取締役の年間報酬総額	24,868千円	(内、社外取締役の報酬総額 1,800千円)
監査役の年間報酬総額	1,170千円	(内、社外監査役の報酬総額 1,170千円)

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 4 名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	山口正志	1951年11月16日	1974年 (株)静岡銀行入行 2003年 静岡保険総合サービス(株)入社 2008年 (株)協和アルテック入社 2012年 当社 取締役 2013年 当社 取締役営業部長 2013年 当社 常務取締役 2014年 当社 専務取締役 2015年 当社 代表取締役社長(現任)	(注)3	6,500
専務取締役	松原昭司	1961年 5 月28日	1977年 (有)倉田食料品店入社 1983年 (株)三協工事入社 1986年 当社 入社 2006年 当社 温泉事業部課長 2012年 当社 温泉事業部部長 2015年 当社 取締役 2017年 当社 常務取締役 2019年 当社 専務取締役(現任)	(注)3	6,500
取締役	福本芳夫	1952年 6 月10日	1971年 (株)静岡銀行入行 2004年 静銀ビジネスクリエイト(株)出向 2007年 (株)静岡銀行帰任 2007年 (株)トーヨーアサノ出向 7 月転籍 2009年 (株)トーヨーアサノ退社 2009年 静岡保険総合サービス(株)入社 2015年 静岡保険総合サービス(株)退社 2017年 当社 取締役(現任)	(注)3	500
監査役	藤原啓史	1952年 4 月22日	1975年 伊東ガス(株)入社 2013年 当社 監査役(現任)	(注)4	200
計					13,700

- (注) 1 取締役 福本芳夫は、社外取締役であります。
2 監査役 藤原啓史は、社外監査役であります。
3 取締役の任期は2019年6月24日から2021年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4 監査役の任期は2018年6月27日から2022年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

社外役員の状況

当社の取締役のうち、福本芳夫氏は社外取締役であり、当社の株式500株を所有しておりますが、それ以外に当社との人的関係、又は取引関係などの特別な利害関係はなく、これまでの社外における幅広い見識と豊富な経験を有していることから、当社の社外取締役として適任であると判断しております。

また、当社の監査役藤原啓史氏は社外監査役であり、当社の株式200株を所有しておりますが、それ以外に当社との人的関係、又は取引関係などの特別な利害関係はなく、中立的・客観的立場で取締役の職務執行を監査しております。そのため、当社経営陣から著しい影響を受ける恐れがなく、独立性が確保されているものと判断しております。このように、社外監査役の選任については、当社をとりまく業界を含め様々な分野における豊富な経験や見識を有し、かつ、経営陣からの独立性が確保されているかという観点から人選しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との関係について、当社は従業員数が12名と少数の会社であるため、特に内部監査部門は設けておりませんが、総務課において業務活動の運営状況、業務実施の有効性及び正確性、コンプライアンスの遵守状況等について検証を行いその結果を代表取締役社長に対して報告するとともに、業務の改善及び適切な運営に向けての具体的な助言を行っております。また総務課は、監査役とも密接な連携をとっており、監査役は内部監査状況を適時に把握できる体制になっております。

監査役は、その策定した監査計画に基づいて、当社の業務全般について、計画的かつ網羅的な監査を実施しております。また、取締役会その他重要な会議に出席し、意見を述べるほか、取締役からの聴取、重要な決裁書類等の閲覧を通じ監査を実施しております。監査役は独立機関としての立場から、適正な監視を行うため定期的に公認会計士を含めた積極的な情報交換により連携をとっております。

また、総務課、監査役及び公認会計士は、定期的に会合を実施することで情報交換及び相互の意思疎通を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は社外監査役である藤原啓史氏によって実施されております。藤原啓史氏は当社をとりまく業界を含め様々な分野における豊富な経験や企業経営を統括する十分な見識を有しており、その見地から総務課と連携して取締役の業務執行を監査しております。

内部監査の状況

総務課は、経営統括部門が行うリスクマネジメント、コンプライアンス等の内部統制システムの運用状況について、内部監査の監査方針及び計画並びに実施した監査結果を監査役に報告します。また、監査役は、報告を受けた内容を精査して、総務課への指示、助言を行います。

会計監査の状況

A 業務を執行した公認会計士の氏名

石川 貴彦(エリプス公認会計士共同事務所)

久保田宏明(エリプス公認会計士共同事務所)

B 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は公認会計士2名であります。

C 審査体制

意見表明に関する審査については、本有価証券報告書の監査証明業務に従事していない公認会計士により実施されております。

(監査報酬の内容等)

(監査公認会計士等に対する報酬の内容)

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
3,200	—	3,200	—

(その他重要な報酬の内容)

該当事項はありません。

(監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容)

該当事項はありません。

(監査報酬の決定方針)

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査日数、当社の規模・業務の特性等の要素を勘案して、適切に決定しております。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、エリプス公認会計士共同事務所 公認会計士 石川貴彦氏、公認会計士 久保田宏明氏により監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年 3 月31日)	当事業年度 (2019年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	467,650	478,758
売掛金	28,789	27,295
製品	25	88
仕掛品	948	1,067
原材料及び貯蔵品	9,367	7,482
未収還付法人税等	-	344
前払費用	745	501
その他	2,400	-
貸倒引当金	172	163
流動資産合計	509,755	515,374
固定資産		
有形固定資産		
建物	155,134	155,134
減価償却累計額	98,088	101,135
建物（純額）	¹ 57,046	¹ 53,998
建物附属設備	4,385	4,385
減価償却累計額	3,357	3,529
建物附属設備（純額）	1,027	856
構築物	1,680,431	1,673,159
減価償却累計額	1,423,596	1,448,146
構築物（純額）	256,834	225,013
機械及び装置	160,860	164,045
減価償却累計額	131,414	129,654
機械及び装置（純額）	29,445	² 34,391
車両運搬具	12,443	12,554
減価償却累計額	11,178	11,187
車両運搬具（純額）	1,265	1,367
工具、器具及び備品	8,640	8,640
減価償却累計額	8,483	8,533
工具、器具及び備品（純額）	156	106
土地	¹ 148,733	¹ 148,733
建設仮勘定	1,574	3,064
有形固定資産合計	496,084	467,531
無形固定資産		
電話加入権	348	348
水道施設利用権	730	627
ソフトウェア	4,330	1,968
無形固定資産合計	5,409	2,944
投資その他の資産		
出資金	500	500
投資有価証券	30,395	30,662
長期前払費用	1,199	458
差入保証金	78	77
保険積立金	19,510	23,117
繰延税金資産	16,111	16,906
投資その他の資産合計	67,796	71,722
固定資産合計	569,289	542,199

資産合計	1,079,044	1,057,573
負債の部		
流動負債		
買掛金	110	124
未払金	3,134	2,981
未払費用	20,598	15,723
未払法人税等	3,332	91
未払消費税等	2,140	895
前受金	131,290	115,277
預り金	2,658	2,313
賞与引当金	2,656	2,393
流動負債合計	165,921	139,800
固定負債		
退職給付引当金	20,196	21,045
役員退職慰労引当金	13,523	17,024
固定負債合計	33,719	38,070
負債合計	199,641	177,870
純資産の部		
株主資本		
資本金	68,500	68,500
利益剰余金		
その他利益剰余金		
事業拡張積立金	600,000	600,000
繰越利益剰余金	224,617	226,223
利益剰余金合計	824,617	826,223
自己株式	13,600	15,100
株主資本合計	879,517	879,623
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	113	80
評価・換算差額等合計	113	80
純資産合計	879,403	879,703
負債純資産合計	1,079,044	1,057,573

【損益計算書】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月31日)	当事業年度 (自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日)
売上高	302,746	290,560
売上原価		
製品期首たな卸高	-	25
当期製品製造原価	9,618	8,979
合計	9,618	9,005
製品期末たな卸高	25	88
製品売上原価	9,592	8,916
売上総利益	293,153	281,643
販売費及び一般管理費	¹ 276,919	¹ 278,827
営業利益	16,234	2,816
営業外収益		
受取利息	29	24
雑収入	562	1,203
営業外収益合計	592	1,228
経常利益	16,827	4,044
特別利益		
固定資産売却益	² 184	² 35
特別利益合計	184	35
特別損失		
固定資産除却損	³ 971	³ 1,921
特別損失合計	971	1,921
税引前当期純利益	16,040	2,158
法人税、住民税及び事業税	3,341	1,421
法人税等調整額	1,044	869
法人税等合計	4,386	551
当期純利益	11,654	1,606

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	755	7.7	586	6.4
労務費		4,310	43.9	4,300	47.3
経費		4,755	48.4	4,211	46.3
当期総製造費用		9,820	100.0	9,098	100.0
仕掛品期首たな卸高		746		948	
合計		10,566		10,047	
仕掛品期末たな卸高		948		1,067	
当期製品製造原価		9,618		8,979	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
減価償却費	3,102	2,616
水道光熱費	1,034	1,055
消耗品費	136	103
租税公課	324	282

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、総合原価計算による実際原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				設備拡張積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	68,500	-	-	600,000	212,962	812,962
当期変動額						
当期純利益					11,654	11,654
自己株式の取得						
自己株式の処分						
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	11,654	11,654
当期末残高	68,500	-	-	600,000	224,617	824,617

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	12,850	868,612	34	34	868,646
当期変動額					
当期純利益		11,654			11,654
自己株式の取得	1,600	1,600			1,600
自己株式の処分	850	850			850
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）			147	147	147
当期変動額合計	750	10,904	147	147	10,756
当期末残高	13,600	879,517	113	113	879,403

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				設備拡張積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	68,500	-	-	600,000	224,617	824,617
当期変動額						
当期純利益					1,606	1,606
自己株式の取得						
自己株式の処分						
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	1,606	1,606
当期末残高	68,500	-	-	600,000	226,223	826,223

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	13,600	879,517	113	113	879,403
当期変動額					
当期純利益		1,606			1,606
自己株式の取得	2,050	2,050			2,050
自己株式の処分	550	550			550
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			193	193	193
当期変動額合計	1,500	106	193	193	299
当期末残高	15,100	879,623	80	80	879,703

【キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月31日)	当事業年度 (自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	16,040	2,158
減価償却費	47,729	45,022
貸倒引当金の増減額（ は減少）	3	8
賞与引当金の増減額（ は減少）	12	262
退職給付引当金の増減額（ は減少）	6,972	849
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	9,088	3,501
受取利息及び受取配当金	29	24
固定資産売却損益（ は益）	184	35
固定資産除却損	971	1,921
売上債権の増減額（ は増加）	591	1,494
たな卸資産の増減額（ は増加）	2,201	1,703
仕入債務の増減額（ は減少）	6	13
未払金の増減額（ は減少）	7,157	2,475
未払消費税等の増減額（ は減少）	1,838	1,245
その他の資産の増減額（ は増加）	531	1,103
その他の負債の増減額（ は減少）	21,778	16,357
小計	49,118	37,358
利息及び配当金の受取額	29	24
法人税等の支払額	182	4,998
営業活動によるキャッシュ・フロー	48,966	32,384
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	7,041	16,261
有形固定資産の売却による収入	328	35
投資有価証券の取得による支出	20,350	-
定期預金の預入による支出	3,900	2,400
定期預金の払戻による収入	18,000	7,200
保険積立金の積立による支出	3,600	3,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	16,563	15,026
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	1,600	2,000
自己株式の処分による収入	850	550
財務活動によるキャッシュ・フロー	750	1,450
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	31,653	15,908
現金及び現金同等物の期首残高	238,397	270,050
現金及び現金同等物の期末残高	1 270,050	1 285,958

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品・仕掛品・原材料

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。ただし、1998年4月以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 8～38年

構築物 3～35年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

水道施設利用権 15年

ソフトウェア 5年

(3) 長期前払費用

均等償却によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、法人税法による繰入限度相当額に加え、個別の債権について回収の可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務見込額に基づき計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5 収益及び費用の計上基準

維持管理費収入は、現金収受時に収益として計上しております。

6 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から３ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年２月16日。以下「税効果会計基準

部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において「流動資産」の「繰延税金資産」954千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」16,111千円に含めて表示しております。

また税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第３項から第５項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注８)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注９)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前事業年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第７項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
建物	36,494 千円	34,590 千円
土地	21,172 千円	21,172 千円
計	57,666 千円	55,763 千円

2 当期に取得した有形固定資産について、取得価額から控除した圧縮記帳額は機械及び装置3,980千円であります。

(損益計算書関係)

1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度0.9%、当事業年度0.9%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度99.1%、当事業年度99.1%であります。販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
役員報酬	24,174千円	26,038千円
給料及び手当	43,783 "	41,609 "
減価償却費	44,627 "	42,406 "
賞与引当金繰入額	2,656 "	2,393 "
退職給付費用	3,092 "	3,410 "
役員退職慰労引当金繰入額	9,263 "	3,501 "
貸倒引当金繰入額	2 "	8 "
動力費	34,397 "	37,758 "
燃料費	65,018 "	64,383 "
動力用水光熱費	— "	7,000 "

2 固定資産売却益の内容

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
車両運搬具	184 千円	35 千円
計	184 千円	35 千円

3 固定資産除却損の内容

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
構築物	— 千円	1,904 千円
機械及び装置	971 千円	16 千円
計	971 千円	1,921 千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
発行済株式				
普通株式(株)	131,600	—	—	131,600
自己株式				
普通株式(株)	25,700	3,200	1,700	27,200

(注) 1 自己株式の増加3,200株のうち、700株は2016年 6月22日定時株主総会決議に基づく取得であり、

2,500株は2017年 6月22日定時株主総会決議に基づく取得であります。

2 自己株式の減少1,700株は、自己株式の処分によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
発行済株式				
普通株式(株)	131,600	—	—	131,600
自己株式				
普通株式(株)	27,200	4,100	1,100	30,200

(注) 1 自己株式の増加4,100株のうち、1,400株は2017年 6月22日定時株主総会決議に基づく取得であり、

2,700株は2018年 6月27日定時株主総会決議に基づく取得であります。

2 自己株式の減少1,100株は、自己株式の処分によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
現金及び預金	467,650 千円	478,758 千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	197,600 千円	192,800 千円
現金及び現金同等物	270,050 千円	285,958 千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等を中心に行い、資金調達については、自己資金及び必要に応じて銀行借入により調達しております。

なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、未払金及び未払費用は、ほとんど1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権について、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、資金担当部門が月次に資金繰計画を作成、更新するとともに手許流動性を高く維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注2)参照)。

前事業年度(2018年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	467,650	467,650	—
(2) 売掛金	28,789	28,789	—
(3) 未収還付法人税等	—	—	—
(4) 投資有価証券	30,395	30,395	—
資産計	526,836	526,836	—
(1) 買掛金	110	110	—
(2) 未払金	3,134	3,134	—
(3) 未払費用	20,598	20,598	—
(4) 未払法人税等	3,332	3,332	—
(5) 未払消費税等	2,140	2,140	—
負債計	29,316	29,316	—

当事業年度(2019年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	478,758	478,758	—
(2) 売掛金	27,295	27,295	—
(3) 未収還付法人税等	344	344	—
(4) 投資有価証券	30,662	30,662	—
資産計	537,061	537,061	—
(1) 買掛金	124	124	—
(2) 未払金	2,981	2,981	—
(3) 未払費用	15,723	15,723	—
(4) 未払法人税等	91	91	—
(5) 未払消費税等	895	895	—
負債計	19,815	19,815	—

(注1)．金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金及び預金 (2) 売掛金 (3) 未収還付法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

時価は、取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照下さい。

負 債

(1) 買掛金 (2) 未払金 (3) 未払費用 (4) 未払法人税等 (5) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2)．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2018年3月31日	2019年3月31日
出資金	500	500

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価の開示をしておりません。

(注3)・金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(2018年3月31日)

	(単位：千円)		
	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内
(1) 現金及び預金	467,650	—	—
(2) 売掛金	28,789	—	—
(3) 未収還付法人税等	—	—	—
(4) 投資有価証券	—	—	30,395
合計	496,440	—	30,395

当事業年度(2019年3月31日)

	(単位：千円)		
	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内
(1) 現金及び預金	478,758	—	—
(2) 売掛金	27,295	—	—
(3) 未収還付法人税等	344	—	—
(4) 投資有価証券	—	—	30,662
合計	506,398	—	30,662

(有価証券関係)

前事業年度(2018年3月31日)

その他有価証券で時価のあるもの(2018年3月31日現在)

(単位:千円)

区分		決算日における貸借 対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	20,505	20,350	155
	小計	20,505	20,350	155
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	9,890	10,202	311
	小計	9,890	10,202	311
合計		30,395	30,552	156

当事業年度(2019年3月31日)

その他有価証券で時価のあるもの(2019年3月31日現在)

(単位:千円)

区分		決算日における貸借 対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	20,751	20,350	401
	小計	20,751	20,350	401
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	9,911	10,202	291
	小計	9,911	10,202	291
合計		30,662	30,552	110

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度と外部拠出退職金共済制度（中小企業退職共済）を採用しており、退職給付引当金及び退職給付費用の計算には、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	27,168	20,196
退職給付費用	3,092	3,410
退職給付の支払額	7,418	—
制度への拠出額	2,646	2,561
退職給付引当金の期末残高	20,196	21,045

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	55,654	59,346
年金資産	35,457	38,301
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	20,196	21,045
退職給付引当金	20,196	21,045
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	20,196	21,045

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前事業年度3,092千円 当事業年度3,410千円

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年 3月31日)	当事業年度 (2019年 3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	223 千円	—
賞与引当金	730 千円	658 千円
退職給付引当金	11,394 千円	11,628 千円
役員退職慰労引当金	3,718 千円	4,681 千円
その他有価証券評価差額金	43 千円	—
減損損失	47,245 千円	47,245 千円
繰延税金資産小計	63,356 千円	64,213 千円
評価性引当額	47,245 千円	47,245 千円
繰延税金資産合計	16,111 千円	16,968 千円
繰延税金負債		
未収事業税	—	30 千円
その他有価証券評価差額金	—	30 千円
繰延税金負債合計	—	61 千円
繰延税金資産純額	16,111 千円	16,906 千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年 3月31日)	当事業年度 (2019年 3月31日)
法定実効税率	—	27.5
(調整)		
住民税均等割額等	—	8.5
中小法人軽減税率	—	8.4
その他	—	2.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	25.6

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は事業内容により「温泉事業」「アグリ事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「温泉事業」は、大室高原別荘地において温泉を給湯しております。

「アグリ事業」は、当社の温泉を利用した水耕栽培による野菜の生産・販売を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度（自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	温泉事業	アグリ事業	
売上高			
外部顧客への売上高	286,780	15,965	302,746
セグメント間の内部 売上高又は振替高	33	130	164
計	286,814	16,096	302,910
セグメント利益	15,474	760	16,234
セグメント資産	982,002	97,042	1,079,044
セグメント負債	197,835	1,805	199,641
その他の項目			
減価償却費	44,565	3,163	47,729
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	8,245	—	8,245

当事業年度（自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	温泉事業	アグリ事業	
売上高			
外部顧客への売上高	277,400	13,160	290,560
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22	110	132
計	277,422	13,270	290,693
セグメント利益	3,856	1,039	2,816
セグメント資産	950,169	107,404	1,057,573
セグメント負債	175,994	1,876	177,870
その他の項目			
減価償却費	42,344	2,677	45,022
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	16,058	—	16,058

4 報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

売上高	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	302,910	290,693
セグメント間取引消去	164	132
財務諸表の売上高	302,746	290,560

(単位：千円)

利益	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	16,234	2,816
全社費用	—	—
財務諸表の営業利益	16,234	2,816

(単位：千円)

資産	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	1,079,044	1,057,573
全社資産	—	—
財務諸表の資産合計	1,079,044	1,057,573

(単位：千円)

負債	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	199,641	177,870
全社負債	—	—
財務諸表の負債合計	199,641	177,870

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		財務諸表計上額	
	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度
減価償却費	47,729	45,022	—	—	47,729	45,022
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	8,245	16,058	—	—	8,245	16,058

【関連情報】

前事業年度(自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書への売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書への売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

前事業年度 (自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月31日)		当事業年度 (自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日)	
1 株当たり純資産額	8,423.40 円	1 株当たり純資産額	8,675.57 円
1 株当たり当期純利益金額	111.70 円	1 株当たり当期純利益金額	15.72 円

(注) 1 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

前事業年度 (自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月31日)		当事業年度 (自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日)	
当期純利益	11,654 千円	当期純利益	1,606 千円
普通株主に 帰属しない金額	—	普通株主に 帰属しない金額	—
普通株式に係る 当期純利益	11,654 千円	普通株式に係る 当期純利益	1,606 千円
普通株式の 期中平均株式数	104,331 株	普通株式の 期中平均株式数	102,131 株

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【その他】

種類及び銘柄			投資口数等	貸借対照表計上額 (千円)
投資 有価証券	その他 有価証券	(証券投資信託の受益証券) アムンディ・ダブルウォッチ	10,000,000口	10,306
		(証券投資信託の受益証券) 野村P I M C O 世界インカム戦略ファンド	9,335,285口	9,911
		(証券投資信託の受益証券) 東京海上 円資産バランスファンド	9,302,326口	10,445
計			28,637,611口	30,662

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	155,134	—	—	155,134	101,135	3,047	53,998
建物附属設備	4,385	—	—	4,385	3,529	171	856
構築物	1,680,431	—	7,271	1,673,159	1,448,146	29,915	225,013
機械及び装置	160,860	12,754	9,569	164,045	129,654	7,792	34,391
車両運搬具	12,443	1,041	930	12,554	11,187	940	1,367
工具、器具及び備品	8,640	—	—	8,640	8,533	50	106
土地	148,733	—	—	148,733	—	—	148,733
建設仮勘定	1,574	2,261	771	3,064	—	—	3,064
有形固定資産計	2,172,203	16,058	18,543	2,169,718	1,702,187	41,918	467,531
無形固定資産							
電話加入権	348	—	—	348	—	—	348
水道施設利用権	1,534	—	—	1,534	906	102	627
ソフトウェア	11,810	—	—	11,810	9,841	2,362	1,968
無形固定資産計	13,693	—	—	13,693	10,748	2,464	2,944
長期前払費用	2,558	—	—	2,558	2,177	639	381

(注) 1 当期増加額及び減少額の主なものは次のとおりであります。

主な増加	機械装置	ガスボイラー	8,580千円
主な減少	構築物	オイルタンク	6,021千円
	機械装置	ボイラー	9,005千円

2 機械及び装置の「当期償却額」には、租税特別措置法の規定による特別償却額2,574千円が含まれております。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(短期)	172	163	0	172	163
賞与引当金	2,656	2,393	2,656	—	2,393
役員退職慰労引当金	13,523	3,501	—	—	17,024

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、洗替による戻入額であります。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末(2019年3月31日現在)における主な資産及び負債の内容は次のとおりであります。

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	262
預金の種類	
当座預金	2,550
普通預金	282,129
定期預金	192,200
振替貯金	1,016
定期積金	600
計	478,496
合計	478,758

売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)セラヴィリゾート泉郷	1,297
埼玉県	346
ナガヤ(株)	305
(資)八百末商店	230
利渉輝雄	187
その他	24,927
合計	27,295

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円) (A)	当期発生高(千円) (B)	当期回収高(千円) (C)	当期末残高(千円) (D)	回収率 $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2} \times \frac{365}{(B)}$
28,789	246,768	248,262	27,295	90.0%	41.4

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

製品

区分	金額(千円)
野菜(レタス)	88

仕掛品

区分	金額(千円)
野菜(レタス)	1,067

原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
種子・肥料	33
A重油(加熱用)	3,411
その他資材	4,037
合計	7,482

買掛金

区分	金額(千円)
(株)エム式水耕研究所	124

前受金

区分	金額(千円)
東京ケータリング(株)	873
長井正利	523
屋代眞彦	459
伊藤吉孝	411
馬場千晴	411
その他	112,599
合計	115,277

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4 月 1 日から 3 月31日まで
定時株主総会	6 月中
基準日	3 月31日
株券の種類	100株券
剰余金の配当の基準日	別に定めなし
1 単元の株式数	－
株式の名義書換え	
取扱場所	当社総務課
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	なし
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
買取手数料	なし
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第59期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)2018年6月28日東海財務局長に提出

(2) 半期報告書

事業年度 第60期中(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)2018年12月25日東海財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2019年 6 月24日

大室温泉株式会社
取締役会 御中

エリプス公認会計士共同事務所

公認会計士 石 川 貴 彦

公認会計士 久 保 田 宏 明

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大室温泉株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第60期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私たちは、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大室温泉株式会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
- 2 X B R L データは監査の対象には含まれていません。